

フランス最初の女優たち

戸口民也

(長崎外国語大学)

職業俳優の登場

フランスで職業俳優が登場するのは、14世紀後半のことです。文書で確認できるもっとも古い俳優はジャン・ド・ベスール Jehan de Besceul という笑劇役者で、1388年2月16日、国王シャルル6世から64ソル賜ったという記録があります¹。フランスにおける職業俳優のはじまりは、笑劇 farce を主とする世俗劇の演技者たちでした。彼らは個人で、あるいは仲間と一座をつくり、各地を旅しながら演じていました。

女優の登場

女優の登場はもう少し遅れます。中世においては、女性が舞台に立つことは希でした。その影響もあったのでしょうか、フランスで、女性の職業的演技者が現れるのは16世紀初め頃のことです。1502年アミアン Amiens で、「諸氏の前で娯楽を演じたことにより6人の仲間と1人の娘に対して」22ソル6ドニエが与えられた、という記録があります²。おそらくこれが最も古い記録でしょう。また1544年パリで、「古代ローマ劇役者」*joueur des anticques jeux romains* ジャン・アントワーヌ Jehan Anthoine が「俳優と女優の《一座》」*«bande» d'acteurs et d'actrices* を募ったという記録も見つかっています³。ただ、いずれの場合も、詳しいことはわかりません。

マリー・フェレ：1545年ブルージュ

1545年、ブルージュ Bourges で、マリー・フェレ Marie Ferré という女性が、「物語役者」*joueur d'histoires* アントワーヌ・ド・レスペロニエール Anthoine de L'Esperonnyère と雇用契約を結びます⁴。契約期間は1年。マリーは「道徳的物語、笑劇、軽業からなる古代ローマもの」*enticalles [antiquailles] de Rome, consistant en plusieurs ystoires moralles, farses et soubressaulx* を演じるのに対し、レスペロニエールは、マリーに寝食を保証し、報酬として12リーヴルを支払うとされています。また、マリーが衣服やそれを買うための金をもらったときは、レスペロニエールの妻ガイヤルド Gailharde がその半分をとるが、個人の屋敷を訪問して演じたときにマリーが金をもらった場合は、マリーのものとも決められています。ガイヤルドという名前はいかにも芸名らしくみえます。彼女も女優あるいは女芸人だったのかもしれませんが。二人が一緒に演じたときは、マリーとガイヤル

¹ Henry Lyonnet, *Dictionnaire des Comédiens*, Paris et Genève, 1902-1908, 2 vol. (Genève, Slatkine Reprints, 1969), Tome I, p. 163. 資料1参照。

² Georges Lecocq, *Histoire du théâtre en Picardie*, Paris, 1880 (Genève, Slatkine Reprints, 1971), p. 139. 資料2参照。

³ Charles Mazouer, *Le Théâtre français de la Renaissance*, Paris, Honoré Champion, 2002, p. 22.

⁴ Hippolyte Boyer, « Engagement d'une actrice au théâtre de Bourges en 1545 », *Mémoires de la société historique, scientifique et littéraire du Cher*, 1888, p. 283-293. 契約文書のテキストは同 p. 287-289. 資料3参照。

ドと半分ずつ分けるが、訪問上演でマリーが招待者から直接金をもらった場合はマリーのものになる、ということでしょう。

(さて、) マリーにはミシェル・ファセ Michel Fasset という夫がいて、職業は「大道芸人」bateleur です。マリーも夫と同じ仕事をしていたに違いありません。こうしてみると、マリー・フェレは、女優というよりはむしろ大道芸人に近いように思えます。契約文書に記された彼女の演目には「軽業」も含まれています。

ところで、マリーの報酬 12 リーヴルというのは、生活費全般を雇い主が負担するにしても、つつましい金額です。一座の稼ぎも、おそらくそれに見合う程度のささやかなものだったのでしょう。雇い主レスペロニエールの劇団にしても、中世的な旅芸人の一座と見た方がよいでしょう。近代的な劇団・俳優が現れるのは、まだもう少し後のことです。

本格的女優の登場：1592年ボルドー

本格的な女優というにふさわしい女性が始めて記録にあらわれるのは、1592年、ボルドー Bordeaux においてです。『ボルドー年代記⁵』によれば、「この年」つまり 1592年に、「著名な俳優」ヴァルラン・ル・コント Valleran Le Conte がボルドーを訪れ、「悲劇や笑劇を多数上演し、観客から大いに喝采され」ました。しかも一座には女優が加わっていました。座長の妻です。(なお、ヴァルランは一座の中心俳優でしたが、座長ではありませんでした。)『年代記』はこの女優について、次のように記しています。

(…座長には)非常に美しい妻がいたが、彼女はこの職業の通例に反し品行も言葉遣いも立派で、知らぬ人はこの職業とは思わなかつたろう。ボルドーの若者たちのなかには、彼女のおだやかで上品な会話と美しさに魅せられ、言葉をかけたり使いや贈り物を送るなどして気を引こうと努めた者たちもいたが、彼女は決して応じなかつた。彼女は笑劇の人物はやらず、悲劇や悲喜劇で女性にふさわしい役だけを演じていた。そのため、ボルドーで噂になったところでは、彼女はパリの弁護士の娘だったが、結婚した相手が悪く、夫はブルゴーニュのしかるべき農民の出身で、立派な生まれであるにもかかわらず、放蕩癖をもち、金をかけずに国を巡り歩き世間を見ようと思つてこの稼業に就いたとのこと、それがため彼女も、思いもかけず意にも反することながら、夫と同じ職業に就かざるを得なくなつたとのことである。彼女は自分の役を見事に演じ、王妃や王女の役で彼女に欠けていたのは生まれだけだった。顔立ち、物腰、言葉遣いをみて、だれもがそう思ったほどである。特に彼女の優美さは、その役が愛を求められる女性や恋にやつれた女性とか、愛を求める女性である場合に際立っていた。(…)この女性は、若者たちが彼女の許を訪れた折り、物語について礼儀正しく真面目な会話を交わすことは大変喜んだが、節度をわきまえずみだらなことを話す者には、舞台を離れば自分は役者ではありませんと言つて、はっきりとその不作法をとがめていた。彼女の評判は大層良く、ボルドーの上流家庭でも、ご婦人方の間でも、常に歓待された。その後ボルドーにもたらされた報せでは、彼女はボルドーを去つた後、一説によればドーフィネで、別の説によればアヴィニオンで夫に死に別れたため、

⁵ Jean de Gaufreteau, *Chronique bordelaise*, Tome premier (1240 à 1599), Bordeaux, 1877, p. 306-308. 資料 4 参照。

パリの親許に帰り、そこで立派にしかるべく暮らしているとのことである。

残念なことに、年代記にはこの女優の名前が記されていません。それにしても、一人の女優のことがこれほどはっきりと記されている文書は、それ自体大変貴重なものです。この女優が悲劇や悲喜劇で王妃や王女を「見事に」演じていたことは、『年代記』が語っておりです。フランスにおける女優の歴史を考えると、名前の伝わっていないこの女性こそ、本格的な女優というにふさわしい最初の人物と言えるでしょう。

ひとつ気になるのは、「彼女はこの職業の通例に反し品行も言葉遣いも立派で、知らぬ人はこの職業とは思わなかつただろう」という記述です。逆にいえば、世間一般からは、役者は品行や言葉遣いにおいていかがわしい人間たちと見られていた、ということです。ボルドーのヒロイン自身が、彼女に近寄ってくる無作法な青年たちに対して、舞台を離れたら自分は役者ではないと言ってとがめているのは象徴的です。では、彼女は例外だったのでしょうか？ そうとは言えません。少し時代は下りますが、1618年にナント Nantes を訪れたある劇団の俳優たちは「大変礼儀正しく、無作法なことは何ひとつ」口にしなかつたとの証言が残されています⁶。

クロード・ピトンとコロンプ・ヴニエール：1603年アンジェ

マリー・フェレ以後、女優の名が記されている最初の文書は、1603年アンジェ Angers で作成された劇団契約です⁷。契約に加わっている俳優の数は6人で、そのなかに2組の夫婦がいます。フルリー・ジャコー Fleury Jacquault（芸名モンフルリー Montfleury）と妻コロンプ・ヴニエール Colombe Venière、ダニエル・デュゲ Daniel Dugué と妻クロード・ピトン Claude Piton です。収益の分配についても、男性俳優4人はそれぞれ取り分1、女優2人はそれぞれ取り分3/4、ただしコロンプは向こう1ヶ月間は取り分1/2、1ヶ月後から取り分3/4とする、と記されています。女優2人の持ち役については、劇のなかで女性が1人しか必要ないときはクロードとコロンプが1日おきにその役を演じる、2人が同時に演じるときはクロードが主役を、コロンプが脇役を演じるが、クロードが主役の台詞を必要な時まで覚えられずコロンプの方が早く覚えた時は、コロンプが主役を演じる、とされています。女優2人の取り分が少ないのは、まだ経験が十分でないからでしょう。クロードの方が先輩格のようですが、彼女は「署名できない旨申告」と文書の最後に記されています。読み書きができなかつたのでしょう。おそらくそれで台詞を覚えるのに手間取り、コロンプに先を越されることがあったのかもしれません。

劇団のレパートリーにも注目したいところです。1592年ボルドーを訪れた劇団は「悲劇や笑劇を多数上演」し、例の女優は「悲劇や悲喜劇で女性にふさわしい役だけを演じていました。笑劇は中世以来の演目ですが、悲劇・悲喜劇という新しい分野の作品も演じていたわけです。1603年アンジェの文書でも、喜劇・悲劇・田園劇が演目に含まれています。こうしたことは、他の記録からもはっきり確認できます。新しい時代にふさわしい

⁶ Lettre de M^{lle} de Rohan à la duchesse de La Trémoille. Voir Eugène Rigal, *Le théâtre français avant la période classique*, Paris, 1901 (Réimpression, Genève, Slatkine Reprints, 1969), p. 24.

⁷ 戸口民也「アンジェの3つの文書 - 17世紀初頭の劇団協約」、17世紀仏演劇研究会『エイコス』第16号、2004年、121-133ページ。契約文書テキストは同130-131ページ。資料5参照。

レパートリーをもつ劇団が現れてきました。しかもこのレパートリーは、女優の存在を必要としていました。とくに悲劇・悲喜劇・田園劇では、女性が重要な役割を演じることが多いのです。しかし、この時期、女優は記録上ほとんど確認されていませんし、実際にその数は少なかったと思われます。そうしたなかで、クロード・ピトンとコロンブ・ヴニエールは、名前が確認されている最初の女優になるわけです。

なお、クロード・ピトンが登場するのは、この文書だけです。夫のデュゲについては1609年にパリで演じたことを示す記録⁸がありますが、それ以外のことはまったくわかりません。これに対して、コロンブ・ヴニエールについては、もう少しわかっています。

ヴニエール姉妹とその夫たち

ところでコロンブには、マリー Marie という姉妹、ピエール Pierre という兄弟がいます。いずれも役者となりましたが、ピエールについては名前を挙げるにとどめておきます。

コロンブとマリーのどちらが年上か、わかりません。コロンブは、1603年には俳優フルリー・ジャコーの妻として、舞台に立っていました。一方マリーは1602年に、やはり俳優のマテュー・ルフェーヴル Mathieu Lefebvre (芸名ラ・ポルト La Porte) と結婚しています⁹。この時が、マリーの女優としての出発点と見てよいでしょう。マリーはこのとき成年(つまり親の保護・監督を離れ、自分の権利を自由に行使できる年齢)に達していました。成年と認められる年齢は地方によって違い、パリでは25歳、ノルマンディーでは20歳でした。(マリーは、マテュー・ルフェーヴルと結婚したとき、少なくとも20歳、あるいは25歳に達していたということです。)

マリーの(そしてコロンブの)父はブルゴーニュ地方サンス Sens の検事でした。しかるべき社会的地位といえるでしょう。夫のマテューはブルターニュ地方のしかるべき家の出身で、このとき30歳でした。ところで、1600年から1601年にかけて、マテューの劇団に、マリーの姉妹コロンブの夫となるフルリー・ジャコーも加わっています¹⁰。これは私の想像にすぎませんが、マテューとフルリーの劇団が1600年前後にサンスの町を訪れ、そこでヴニエール姉妹と出会い、やがて二組の夫婦が誕生した、そしてコロンブとマリーは、それぞれ夫とともに舞台に立つようになった、というストーリーが考えられるかもしれません。

マリーとマテューについては後でまた述べることにし、コロンブとフルリーの話に戻りたいと思います。コロンブはいつフルリーと結婚したのでしょうか。1603年の時点で取り分1/2ということから、役者としての経験は1年から2年程度だったろうと推測できます。彼女が結婚し、女優としての道を歩み始めたのは、1601年から1602年にかけての頃だったと思われます。フルリーとコロンブは、1606年アンジェで作成された劇団契約にも共に名を連ねています¹¹。このときのコロンブの取り分は他の俳優たちと同じでした。

なお、1603年と1606年のアンジェの文書には、マテュー・ルフェーヴルの名前はあり

⁸ Alan Howe, *Le Théâtre professionnel à Paris, 1600-1649 : documents du Minutier central des notaires de Paris*, Paris, Centre historique des Archives nationales, 2000, p. 230-231.

⁹ S. Wilma Deierkauf-Holsboer, *Le Théâtre de l'Hôtel de Bourgogne*, Tome I, Paris, Nizet, 1968, p. 179 ; Howe, *op. cit.*, p. 214. 資料6参照。

¹⁰ 戸口, *op. cit.*, p. 121-122 et 128-129 ; Howe, *op. cit.*, p. 14-16 et 212.

¹¹ 戸口, *op. cit.*, p. 124-125 et 132-133.

ません。1607年、フルリーはマテューの劇団に再び加わりますが、マテューや他の俳優たちと争いを起こします¹²。やがて折り合いがつかぬものの、マテューとフルリーはこのとき限り袂を分かったようです。

それから4年後の1611年、フルリーとコロンプは、フランソワ・ル・ヴォートルル François Le Vautrel の劇団に加わり、トゥールーズ Toulouse に行っています。しかし、フルリーは勝手に劇団を去り、放蕩無頼の生活を送るようになったようです。コロンプは劇団にとどまり、女優を続けながら生活をなんとか維持していました。その後、フルリーと劇団との間に訴訟騒ぎがおこります。すべてはフルリーの身勝手からきたことのように、フルリー自身が後に、自分の訴えは虚偽であったと認め、あわせて訴えを取り下げます。この騒動は、結局、国王ルイ13世が俳優たちのために赦免状を発行することによって解決されることとなります¹³。

コロンプは、夫のもとには戻りませんでした。その後、彼女は、トゥールーズで同じ劇団に所属していた若手俳優エティエンヌ・ド・リュファン Étienne de Ruffin (芸名ラ・フォンテーヌ La Fontaine) と行動を共にしていることが、1612年から1616年にかけての記録から確認できます¹⁴。1616年9月の文書では、コロンプはエティエンヌの妻と記されています¹⁵。以下は私の勝手な想像ですが、コロンプは、身勝手に争いごとが絶えない夫に愛想を尽かしていた、そして同じ劇団の若手俳優に次第に心を惹かれていく、それをフルリーは嫉妬し、やがて破局が訪れる、その後フルリーが死に、コロンプとエティエンヌは正式に夫婦となった…という展開が考えられなくもありません。しかし、1616年の文書を最後に、コロンプの名前は記録に現れなくなります。一方エティエンヌは、その後自ら劇団を結成し、旅回りの役者として人生を終えたようです。コロンプとの間にルイ Louis という息子が生まれ、成長して俳優となり、父の劇団で演じるようになったことが知られています。しかし、それ以上のことはわかりません。人々の記憶には残らなかったようで、彼らの評判を伝える記録や証言は、残念ながらありません。

ここで、マリー・ヴニエールとマテュー・ルフェーヴルの話に戻りましょう。1607年9月、マテューの劇団はブルジュで約1ヶ月にわたって上演しています¹⁶。マリーも共に演じていました¹⁷。女優としてのマリーに関するもっとも古い記録です。また、ちょうど同じ時期、ヴァルラン・ル・コントの劇団もブルジュにきて、両劇団は一緒に演じることとなります¹⁸。1607年9月の下旬には、マテューの劇団は、ヴァルラン劇団とともに、

¹² Howe, *op. cit.*, p. 53 et 223.

¹³ Emile Campardon, *Les Comédiens du roi de la troupe française pendant les deux derniers siècles*, Paris, Champion, 1879, p. 279-280, « Lettres de rémission accordées par Louis XIII à cinq de ses comédiens condamnés au bannissement par le parlement de Toulouse ». 資料7参照 ; Deierkauf-Holsboer, *op. cit.*, I, p. 91-94 ; Howe, *op. cit.*, p. 56-63.

¹⁴ Howe, *op. cit.*, p. 247-248, 253, 255, 256-257, 258 et 354 ; Henri Lagrave, Charles Mazouer et Marc Regaldo, *La Vie théâtrale à Bordeaux des origines à nos jours*, Tome I, Paris, CNRS, 1985, p. 99.

¹⁵ *Ibid.*, p. 258.

¹⁶ Michaël Desprez, « Un témoignage de la première querelle du théâtre en France — *Le Prologue de La Porte, comédien à Bourges, contre les Jésuites* (9 septembre 1607) — », Société de Langue et de Littérature Françaises, *Études de Langue et de Littérature Françaises*, N° 95, septembre 2009, p. 45-59.

¹⁷ *Ibid.*, p. 49.

¹⁸ *Ibid.*

あるいは相前後してパリに上り、オテル・ド・ブルゴーニュ座 Théâtre de l'Hôtel de Bourgogne でともに演じています¹⁹。マリーも一緒だったに違いありません。1608年2月、ヴァルラン劇団との共同上演が終わった後、マテューは新たに劇団を結成し直します²⁰。このときの劇団契約にはマリーも名をつらね、署名もしています。取り分は、夫婦二人で2プラス2/3です。役者の取り分は1が普通ですから、マテューだけでなくマリーの女優としての力量も評価された結果だと考えてよいでしょう。その後も、マリーとマテューは上演活動を続けます。1610年1月、二人はヴァルランとともに演じる契約を結び²¹、3月には改めてともに劇団を結成する契約を結びます²²。二人の取り分は、このときも夫婦あわせて2プラス2/3でした。しかし、1610年12月、二人は劇団を脱退し²³、芝居の世界からも引退して、マリーの実家があるサンスに行き暮らすようになります。

マリーの女優生活はそう長くはありませんでした。しかし、17世紀初めに舞台に立った女優たちのなかで、その評判を伝える記録が唯一残っているのがマリーです。「・・・あの名高い女優ラ・ポルト嬢が舞台に立ち、ヴァルランとともに喝采されていた頃²⁴」とマロル『回想録』に記されています（このラ・ポルト嬢というのはマリーのことです）。マリーが優れた女優だったことを示唆するものといえるでしょう。

引退後のマテューとマリーは、芝居とは無縁の生活を送ったと思われます。1619年、マテューは、俳優としての過去を清算するため「復権（名誉回復）」を王に願い出て、認められています²⁵。ただ、その後、気になることが起こります。1622年12月、マテューとマリーは互いの財産を分離しています²⁶。さらに1624年7月には、マテューは「どこか離れた場所に隠棲し余生を送ること」を望み、全財産を妻マリーに贈与したうえで、マリーから終身年金として年額150リーヴルを受け取るという取り決めをしています²⁷。二人の間に何があったのか、それはわかりません。その後しばらくしてマテューが死ぬと、マリーはパリ高等法院の弁護士と再婚しました。

ラシェル・トレポーとニコラ・ガトー

ここで、もう一人の女優を紹介したいと思います。彼女の名前はラシェル・トレポー Rachel Trépeau です。ラシエルの名前が初めて記録にあらわれるのは、1607年12月、ヴ

¹⁹ Deierkauf-Holsboer, *op. cit.*, I, p. 183-186 ; Howe, *op. cit.*, p. 43-45 et 225.

²⁰ S. Wilma Deierkauf-Holsboer, *Vie d'Alexandre Hardy, poète du roi, 1572-1632 : 47 documents inédits*, Paris, Nizet, 1972, p. 191-193. 資料8参照。

²¹ *Ibid.*, p. 195-197.

²² *Ibid.*, p. 198-201.

²³ *Ibid.*, p. 202 ; Howe, *op. cit.*, p. 239.

²⁴ Michel de Marolles, *Mémoires*, Paris, 1656-57, Tome I, p. 31-32. マロルはこれを1616年の項に記している。そのため、マリーは1610年には引退せず、その後もパリで演じ続けていたと考えられていた（たとえば Deierkauf-Holsboer, *Le Théâtre de l'Hôtel de Bourgogne*, I, p. 80）。しかし、1611年以降、マリーがパリで演じていたことを示す記録はない。ヴァルランについても、1616年にパリで上演した記録は残されていない。1616年というのはおそらくマロルの記憶違いで、マリーはやはり1610年12月をもって夫と共に芝居の世界から引退し、故郷のサンスに戻ったと思われる。

²⁵ Campardon, *op. cit.*, p. 281-282, « Lettres patentes de Louis XIII portant réhabilitation pour Mathieu Lefebvre ». 資料9参照。

²⁶ Deierkauf-Holsboer, *Le Théâtre de l'Hôtel de Bourgogne*, I, p. 80 et 200.

²⁷ *Ibid.*, p. 80 et 201-202.

ヴァルラン・ル・コントがパリで新たに劇団を結成したときの契約文書においてです²⁸。なお、ラシエルは直接契約には加わっておらず、俳優ニコラ・ガトー Nicolas Gasteau が後見人として、彼女の代わりに契約しています。契約文書によると、ラシエルの取り分は 1/2 とされていますが、取り分が得られるのはラシエルが実際に演じ始めた日から、との但し書きが続いています。つまり、まだ役者としての経験が浅いということです。ちなみに、彼女の後見人ニコラの取り分は 1 でした。

ここでニコラについて少しふれたいと思います。ニコラは、1599 年 3 月、15 歳のときヴァルラン・ル・コントのもとで「芝居の技術」を学ぶ契約を結んでいます²⁹。1 年後の 1600 年 4 月に契約を解消し、それと前後して、ロベール・ゲラン Robert Guérin (笑劇役者グロ = ギヨーム Gros-Guillaume として有名な俳優) の劇団に取り分 1/2 で加わっています。その後しばらく記録上は空白が続きますが、1606 年 2 月アンジェ Angers で、ロベール・ゲランとともに、フルリー・ジャコーの劇団に加わり³⁰、1607 年 12 月には、先ほど述べたように、ラシエル・トレポーとともに、ヴァルラン劇団に加わりました。このとき、ニコラは 23 歳。若手ではありますが、すでに 8 年の経験を積んだ役者でした。ラシエルの年齢はあいにくわかりません。おそらく、ニコラよりは若かったでしょう。

なお、1607 年 12 月の劇団契約には、もう一人の女優のことが記されています。こちらは座長のヴァルランが後見人となっていて、ラシエルと同様に、実際に演じ始めた日から取り分 1/2 にあずかることができる、とされています。あいにく、この女優の名前は記されておらず、その後のこともわかりません。

それに対して、ラシエルは、少なくとも 1616 年まで舞台に立っていたことが確認されています。1610 年 3 月パリで、ヴァルラン・ル・コントとマテュー・ルフェーヴルが共に劇団を結成しますが、6 月に追加事項として、ニコラとラシエルの加入が記され、取り分はニコラとラシエルの二人で 1 プラス 1/2 とされています³¹。しかしニコラは、同じ年の 12 月、劇団を脱退しています³²。ラシエルもニコラと行動を共にしたと考えてよいでしょう。というのも、その後も、ほとんど常に、二人の名前は共に記録にあらわれるからです³³。

文書を見る限り、ニコラとラシエルは正式な夫婦ではなかったようです。しかし、取り分に関する記述 (二人あわせて 1 プラス 1/2 という配分のしかた)、劇団結成契約に名前が記される順序 (夫婦の場合、夫の名前のすぐ後に妻の名前が記されるのが普通です) な

²⁸ Deierkauf-Holsboer, *Le Théâtre de l'Hôtel de Bourgogne*, I, p. 185-186.

²⁹ Deierkauf-Holsboer, *Vie d'Alexandre Hardy*, p. 179.

³⁰ 戸口, *op. cit.*, p. 124-125, 132-133.

³¹ Deierkauf-Holsboer, *Le Théâtre de l'Hôtel de Bourgogne*, I, p. 188-191 et *Vie d'Alexandre Hardy*, p. 198-201.

³² Deierkauf-Holsboer, *Vie d'Alexandre Hardy*, p. 202-203. ただし、Deierkauf-Holsboer が示している 12 月 30 日という日付は 12 月 13 日に訂正されるべきである。Cf. Howe, *op. cit.*, p. 239 et la note 78. (なお、私自身も文書を直接参照し、13 日に訂正すべきことを確認している。)

³³ Howe, *op. cit.*, p. 240-241, 245, 258 et 352-353 ; Deierkauf-Holsboer, *Vie d'Alexandre Hardy*, p. 204-206, 207-208. なおこの間、ニコラとラシエルは、1614 年 7 月にボルドーを訪れていることが確認されている。このときの劇団には、コロンブ・ヴニエールとエティエンヌ・ド・リュファンも加わっていた。Henri Lagrave, Charles Mazouer et Marc Regaldo, *La Vie théâtrale à Bordeaux des origines à nos jours*, I, p. 99 参照。

どから、事実上夫婦関係にあったと考えられます³⁴。

しかし、1616年9月の文書を最後に、ラシエルの名は記録にあらわれなくなります。ニコラの名前はその後、1621年から1638年にかけて何度も文書に登場しますが³⁵、ラシエルがどうなったはわかりません。ラシエルについては、親の名前も社会階層も、出身地も年齢も、わからないことばかりです。

おわりに

16世紀初めから17世紀初めにかけて、フランス最初の女優たちについて紹介してきました。大道芸人に近い存在から本格的な女優の登場に至る過程もご紹介できたと思います。

ボルドーのヒロインとヴニエール姉妹は市民階層の出身です。ボルドーの座長やマテュー・ルフェーヴルも、またヴァルラン・ル・コントも、彼女たちと同じような階層の出身でした。ボルドーのヒロインのように、心ならずも女優になったケースもありますが、ヴニエール姉妹の場合は、俳優という仕事の持つ魅力、演劇の魅力に心惹かれて、この道を選んだのではないかと私はそう感じています。

その証拠に、1600年前後から1610年にかけて、ヴァルラン・ル・コントのもとで俳優修行をはじめた若者や娘たちが実際に何人もいたことが、記録からも明らかになっています。ほとんどは、市民階層の出身でした。その中には、先ほど紹介したニコラ・ガトーをはじめ、後にベルローズ Bellerose の芸名で活躍することになるピエール・ル・メシエ Pierre Le Messier、その姉妹ジュディット・ル・メシエ Judith Le Messier、コメディ＝フランセーズ Comédie-Française 草創期を代表する名優ミシェル・パロン Michel Baron の祖母ジャンヌ・ド・クルヴェ Jeanne de Crevé などがいます。俳優に対する世間一般の目は必ずしも暖かいとは言えませんでした。ボルドーの女優について「この職業の通例に反し品行も言葉遣いも立派」と書かれていたこと、マテュー・ルフェーヴルが国王に「復権（名誉回復）」を願い出たことを思い出してください。それにもかかわらず、16世紀末から17世紀初めにかけてのこの時代は、演劇が人々を惹きつけた時代でもありました。ヴァルラン・ル・コントやマテュー・ルフェーヴルのもとで修行を積んだ若き俳優たち・女優たちが、やがて次の時代を担っていきます。フランス演劇の黄金時代は、彼らとともに、まさに始まろうとしていたのです。

最後に、俳優たちの署名（資料の最後のページ）をご覧ください。いずれも、私がパリの国立文書館 Archives Nationales やアンジェの文書館 Archives départementales de Maine-et-Loire に保管されている文書（400年前の公証人の記録）から直接コピーして得たものです。それぞれの署名の大きさは、オリジナルに近いです。（ただし、ヴァルラン・ル・コントは、書類によっては、もう少し大きめの字でサインしています。）

一番上のヴァルラン・ル・コントは、この発表でもしばしば登場しましたが、16世紀末から17世紀初めにかけての時代を代表する俳優・座長です。後にオテル・ド・ブルゴーニュ座 Théâtre de l'Hôtel de Bourgogne の看板俳優・座長として活躍するベルローズ Bellerose、マレー座 Théâtre du Marais の看板俳優・座長であり17世紀前半を代表する

³⁴ この二人の関係については、Alan Howe, « Couples de comédiens au début du XVII^e siècle : Le cas de Nicolas Gasteau et Rachel Trépeau », *Revue d'histoire du théâtre*, 1981-I, p. 17-25 を参照。

³⁵ Howe, *op. cit.*, p. 262, 269, 281, 288-289 et 297.

悲劇役者でもあるモンドリーMontdory は、ヴァルランのもとで役者としての修業を積み、巣立っていきました。

次は、マテュー・ルフェーヴルと、その妻マリー・ヴニエールです。マテュー・ルフェーヴルは、ヴァルランに次ぐ重要な俳優・座長でした。マリー・ヴニエールは、すでにお話ししたとおり、パリで一定の名声を博した最初の女優です。

マリーの下にあるのが、その姉妹コロンプ・ヴニエールの署名です。その左側の上は彼女の最初の夫フルリー・ジャコー、下は二番目の夫エティエンヌ・ド・リュファンです。

最後は、今時の言葉で言えば「事実婚」のカップル、ニコラ・ガトーとラシェル・トレポーです。

男性たちは大きめの字で大きくサインし、女性たちは小さめの字で小さく署名しているのがおわかりでしょう。この中では、ヴァルランの端正な署名がきわだっていますが、どの署名も、それぞれ個性的です。

俳優を、無頼の徒、無知蒙昧の輩と見る人々がいたことは事実です。しかし、16 世紀末から 17 世紀初めにかけて活躍した俳優・女優たちは、ほとんどが市民階層の出身でした。ほとんどが、読み書きができ、一定の教養も身につけていたと思われます。そのことは、今ご覧になっている署名からも、うかがい知ることができるのではないのでしょうか。

資料

資料 1

BESCEUL, Jehan de. — Le plus ancien comédien français connu : « A Jehan de Besceul, joueur de farsses , pour argent donné a luy par le commandement du Roy, pour foing et auoine à son cheual qui porte son harnois, mercredy, 16^e de feurier 1388, le Roy estant au Loure, 64 sols parisis ».

Bibliographie : *Comptes de l'Hôtel du Roy Charles VI*. — Arch. nat. K K 30, fol. 55 v°.

— Henry LYONNET, *Dictionnaire des Comédiens*, Paris et Genève, 1902-1908, 2 vol. (Genève, Slatkine Reprints, 1969), T. I, p. 163.

資料 2

1502, Amiens. Vingt-deux sols six deniers sont donnés « à six compaignons et une fille pour avoir joué aucuns esbattements devant Messieurs. »

— Georges Lecocq, *Histoire du théâtre en Picardie*, Paris, 1880 (Genève, Slatkine Reprints, 1971), p. 139.

資料 3 Acte d'engagement de Marie Ferré

A tous ceulx qui ces présentes lettres verront Jehan Arnault licencié en loix, conseiller et procureur général du Roy nostre Sire en Berry, clerck des fiefs et garde du scel royal estably aux contracts de la Prévosté de Bourges, salut, savoir faisons que en la présence de Guillaume Babou, clerck juré et notaire royal ordinaire soubz ledict scel, pour ce personnellement establie Marie Ferré filhe de Pierre Ferré, natifve de Caors en Crecy (Quercy) et femme de Michel Fasset, bastelleur, natif de Faleze en Normandie, demourant audict lieu de Falèze, laquelle s'est accuehlye et alloée, elle et ses euvres à Anthoine de L'Esperonnyère, joueur d'istories, et Bonfons natif de Joé en Enjou, à présent demourant audict lieu de Jôé, présent, stipulant et acceptant pour luy et les siens jusques à ung an accompter de main prochain pour servir ledict de L'Esperonnyère en toutes et chacunes les villes, places et lieux qui lui plaisa aller, à luy aider à joer chacun jour durant ledict temps, tant et autant de foys qui luy plaisa en l'art de joueur d'enticalles de Rome, consistant en plusieurs ystoires moralles, farses et soubressaulx davant toutes personnes davant lesquelles ledict de L'Esperonnyère jourra et fera joer lesdictes choses deppendant des dicts jeulx et moralités, que ladicte Marie a promis par sa foy et serment faire bien et deument, en telle manière que chacun qui assistera y prandra joeureté (joyeuseté) et recreation, pour gangner, amasser et lever deniers des personnes qui voudront veoir joer pour et au proffict dudict de L'Esperonnyère. Et aussi a promis ladicte Marie de ne se absenter des dicts lieux où ledict de L'Esperonnyère jourra lesdictes choses, ne soy despartir dudict service ledict temps durant. Et en ce faisant ledict de L'Esperonnyère sera tenu et a promis nourrir, alymanter et hospitalizer bien et deument à ses despens ladicte Marie durant ledict temps : Et pour faire et acomplir lequel service par ladicte Marie sera tenu ledict de L'Esperonnyère et a promis lui payer la somme de douze livres tournoys, ainsi que ledict service se fera et acomplira, et au fur qu'il se fera par ladicte Marie pendant ledict temps, et pour deffault d'acomplissement et observance des choses susdictes et chacune d'icelles, ont volu et consenti lesdictes parties respectivement estre gaigées, contrainctes et exécutées en leurs biens par la prinse, vente et exploictacion d'iceulx et tenir prison fermée, et non ysser jusques à plain acomplissement de ce que dict est. Et s'il est donné quelques habillemens ou argent pour en avoir à ladicte Marie par aucunes personnes pendant ledict (temps), Gailharde femme dudict de L'Esperonnyère en aura et prandra sa moictié moyennant ces présentes, et ou cas qu'il sera aussi donné à ladicte Marie aucuns deniers par aucunes personnes qui verront joer lesdictes parties en chambre, seront et demourront à ladicte Marie, ou cas que ledict de L'Esperonnyère aura esté payé et contanté de son dict jeu en chambre ou bien que l'on l'en vouldra payer et contanter par celluy ou ceulx qui l'auront fait joer. Et ou cas que ledict Michel Fasset n'aura pour agréable ce présent marché et accuehlye, sera et demourra ladicte Marie quicte et deschargée du contenu en icelluy et ces dictes présentes demourront cassées pour le temps lors à eschoir, sans ce que ladicte Marie pour le regard de ce soit tenue envers ledict de L'Esperonnyère et les siens en aucunes despenses, dommaiges et intérêts ; auquel cas

advenant sera tenu ledict de L'Esperonnyère payer à ladicte Marie ce qui sera lors deu de ladicte somme à fur de temps. Et si ladicte Marie devient malade pendant ledict temps en faisant ledict service, elle sera nourrye et medecynée aux despens dudict de L'Esperonnyère sans diminution de ladicte somme de douze livres tournoys à elle dessus promise payer. Et si dedans d'huy en quatre moys ledict présent marché et accuelhaige ne plaist à ladicte Marie, en ce cas il demourra nul et de nul effect et valleur pour le temps lors à eschoir, et en icelluy cas sera tenu ledict de L'Esperonnyère luy payer son dict service à fur de temps sans despens, dommaiges et intérests. Car ainsi a esté accordé, dict et passé en la présence dudict juré en la main duquel lesdictes parties respectivement ont promis par leur foy et serment que contre ces présentes et leur contenu elles ne viendront, aller ne venir feront en temps advenir en aulcune manière. Et quand ad ce elles ont obligé et obligent l'une à l'autre, elles, leurs hoirs et tous leurs biens meubles et héritaiges. Renonçant lesdictes parties par leur dicte foy à toutes choses quelconques ad ce contraires. En tesmoing BABOU.

– Hippolyte Boyer, « Engagement d'une actrice au théâtre de Bourges en 1545 », *Mémoires de la société historique, scientifique et littéraire du Cher*, 1888, p. 287-289.

資料 4 *Chronique bordelaise*

En cette année [= en 1592], Valeran, un insigne comediant françois, vint à Bourdeaux, e y representa beaucoup de tragedies et farces, avec ung très grand applaudissement des spectateurs. Est à noter qu'il n'estoit point mairé ni ne portoit le nom de chef de la bande, bien qu'il en fut l'ame e le meneur, ains un aultre, qui estoit meublé d'une très belle creature de femme, laquelle, contre toutes les regles ordinaires de ce mestier, estoit de meurs e conversation honestes, e, celuy qui l'eut ignoré, n'eut point creu qu'elle eut fait ce mestier. Plusieurs jeunes hommes de la ville de Bourdeaux devinrent amoureux autant de sa douce et honneste conversation que de sa beauté, et ils la rechercherent pour en jouir, tant par paroles qn'en ambassades et presents ; mais elle ne voulut jamais consentir ni assentir. Elle ne faisoit point aucun personnage de la farce, ains seulement dans les tragedies ou tragi-comedies, celui qui convient au sexe feminin. C'est pourquoi on faisoit courrir le bruit à Bourdeaux qu'elle estoit fille de maison de la ville de Paris, à scavoir d'un advocat, e qu'elle avoit esté decriée par celuy qui l'avoit espousée, lequel estant d'humeur desbauchée, avoit voulu exercer cette vacation pour courre le païs e voir le monde, sans qu'il luy coustat rien, disoit-il, bien qu'il fut de naissance fort conditionnée e issu d'honestes paysans, en Bourgogne, e qu'elle se trouva engagée, sans y penser e contre ses intentions, à faire mesme mestier que son mary. Elle representoit merveilleusement bien sa partie, e dans les personnages de quelque royne ou princesse, il ne lui manquoit que la naissance ; car à sa mine, à son geste e à sa parole, vous l'eussiez prinse pour telle. Sa grace principalement estoit excellente, lorsque son personnage estoit une recherchée e languissante, quand il falloit qu'elle recherchat. Mais, par ce aussi que Valeran estoit si merveilleux à représenter son personnage, notamment quand c'estoit d'un amoureux, que vous eussiez dict qu'il parloit sans desguisement, e non point en comédien, jettant quelquefois des soupirs et des œillades qui monstroyent de n'avoir aucune feintise. Le discours ordinaire de ceux qui frequentoyent les comediens estoit que cela procedoit de l'amour veritable qu'il avoit pour cette femme, comme aussi estoit-il vray, ainsin qu'il le confessa à plusieurs, et entre autres à moi. Mais aussi fut-il vray que jamais, hors le theatre, elle ne donna le moindre signe d'amour, la moindre pensée qu'elle eut de l'affection pour ledit Valeran, bien qu'elle l'estimat, quand au reste, pour ce qui estoit de sa vacation. Cette femme, dans les visites que les jeunes hommes faisoient à son logis, prenoit grand plaisir d'estre entretenue de discours honestes e serieux, capables dans la science de l'histoire, e elle reprenoit librement et franchement ceux qui lui paloyent trop licencieusement des paroles de mardy gras, leur disant que, hors le theatre, elle n'estoit point commediante. Elle donna une si bonne opinion d'elle, qu'elle fut tousjours la bien venue dans les plus honestes maisons de Bourdeaux, parmi le sexe feminin. La nouvelle fut portée à Bourdeaux après son depart, e, le deceds de son mary estant advenu en Dauphiné, d'aultres disoyent en Avignon, qu'elle s'estoit retirée à Paris auprès de ses parents, e y vivoit fort honestement e honorablement.

– Jean de Gaufreteau, *Chronique bordelaise*, Tome premier (1240 à 1599), Bordeaux, 1877, p. 306-308.

資料 5 Acte d'association des comédiens du roi

Mardy apres midy dix neufiesme jour d'aoust mil six cens trois.

Devant nous Guillaume Guillot notaire royal Angers et tesmoings cy après nommez furent présenz et personnellement establytz chacuns de Jacques Robineau sieur de la Bretonnière, Fleury Jacault sieur de Montfleury (et) Collombe Vesnière sa femme, Danyel du Gué sieur de la Chesnaie (et) Claude Piton sa femme, et Léonard Dallembourg, tous comédiens ordinaires du Roy estans de présent en ceste ville, lesdites femmes de leursdits marys suffisamment auctorizées, quant a ce lesquelz deüment subzmis et obligez respectivement etc confessent avoir ce jour d'huy fait et font entre eulx et autres cy après nommez l'assotiation et assemblée aux condicions, charges, clauses et conventions qui s'ensuivent, cest à savoir qu'ils se sont du jour d'huy assemblez et assotiez ensemblement jusques au jour de caresme prenant prochain pour de compagnie aller et se transporter ensemblement en les villes, lieux et endroitz qu'ilz adviseront entre eulx pour représenter et jouer commédies, tragédies, pastoralles et autres jeuz selon qu'ils verront bon estre. Quand aux fraiz qu'il conviendra et sera requis et nécessaire de faire soit pour louages de jeuz et maisons, pour la conduite et voitture de leur bagage et autre despence et fraiz, seront les premiers prins, levez et hostez sur ce qu'ils recepveront. Pour les deniers qu'ilz pourront recepvoir seront, après lesdits fraiz préallablement levez et hostez, partagez entre tous lesdits assotiez cy dessus. Scavoir est que lesdits Robineau, Jacault, du Gué et Dallembourg en prendront chacun d'eulx une part par esgalle portion et quand auxdites femmes elles prendront chacune d'elles trois quartz d'une desdites parts, fors ladite Vesnière qui ne prendra que demye part jusques a d'huy en ung mois prochain seulement, et, ledit temps d'ung mois passé, prendra lesdits trois quartz. Et lors que lesdites parties représenteront pièze où il ne sera requis y avoir que une femme, lesdites Piton et Vesnière représenteront une ung jour et l'autre l'autre jour ; et quand il conviendra plusieurs(?) desdites femmes représenter le(?) mesme jour la mesme tragédie, ladite Piton représentera les premiers rolles et ladite Vesnière les secondz, lorsqu'elles scauront lesdits roolles. Sinon où ladite Piton ne pourroit sy promptement aprendre lesdits roolles lorsqu'il seroit requis et que ladite Vesnière les aprist plus tost, en ce cas ladite Vesnière représentera les premiers. Et pour le regard de Toussaintz Dallibert et Jullien Bedeau, Callais Anquetif et François Bedeau qui sont en ladite troupe seront nourriz entretenuz et desfrayez par lesdits assotiez à commungs fraiz et n'auront aulcun gaigne ne part quelque fut, sinon lesdits Dallibert et Jullien Bedeau que, le jour de caresme prenant prochaing venu, prendront chacun demye part pour le temps qui pourra lors rester à escheoir seulement, auquel jour de caresme prenant sera baillé, aux despent commungs desdits assotiez, ausdits Dallibert et Jullien Bedeau chacun ung habit pour leur usage et rescompance du service qu'ilz pourroient faire en ladite assotiation jusque audit jour. Au surplus se garderont les assotiez toute loyauté, fidellité et amitié entre eulx, procureront leur gaing quelque fut, esviteront les pertes et dommages à leur possibilité, sans se faire ne dire par soy, ne par personne interposée, ne souffrir estre fait aulcun tort, dommage, injure ne desplaisir; que si aulcuns leur est fait, tascheront ensemble les faire réparer. Au cas qu'il intervienne entre eulx quelque querelle ou débat seront paciffiez et accordez par les autres de ladite compagnie avec le plus de dousseur et amitié que fera se pourra; ce qu'ilz ont promis et juré, stippullé et accepté, dont ilz en sont demeurez d'accord respectivement obligez et obligent leurs corps à tous royaulx Sy fut fait et passé audit Angers maison et présence de Mathurin(?) Le Jay sieur de la Verinière(?) et aussy en la présence de Jehan Gangneur orphevre et Michel Guillet demurant à Angers ; ladite Piton a dit ne scavoir signer.

Robineau	
Dalanbour	Jacquaul
Daniel Dugué	Le Jay
Callais Anquetif	
Gangneur	Veniere
	Guillot

—戸口民也「アンジェの3つの文書 — 17世紀初頭の劇団協約」、17世紀仏演劇研究会『エイコス』第16号、2004年、121-133ページ（契約文書テキストは同p.130-131）。

資料 6 Contrat de mariage entre Mathieu Lefebvre et Marie Venière (Analyse)

1602, 19 décembre. Contrat de mariage entre Mathieu Le Febvre, écuyer, sieur de La Porte, natif de La Roche-Bernard, âgé de trente ans, fils de défunts André Le Febvre et Jeanne Berthereau, logé rue de la Platrière en la maison d'un hôtelier, et Marie Venière, fille de Jean Venière, procureur au bailliage de Sens, et de Perrette Le Vasseur. Communauté de biens ; douaire coutumier de la province de Sens, 200 écus soleil.

– Howe, *Le Théâtre professionnel à Paris, 1600-1649 : documents du Minutier central des notaires de Paris*, Paris, Centre historique des Archives nationales, 2000, p.214.

資料 7 Lettres de rémission accordées par Louis XIII à cinq de ses comédiens condamnés au banissement par le parlement de Toulouse

Louis, par la grâce de Dieu, roy de France et de Navarre, à tous ceulx qui ces présentes lettres verront, salut. Sçavoir faisons que nous avons receue l'humble supplicacion de François Vautré, Hugues Gueriet, Jehan du Mayne, Louis Nicier et Estienne de Ruffin, nos comédiens ordinaires, contenant qu'ayant ci-devant admis en leur compagnie Fleury Jacob et Colombe Vénier, sa femme, ledit Jacob s'en estoit distraict pour estre homme libertin, sans pouvoir rendre subjection à aucune vaccacion, et n'ayant moyen de nourrir et entretenir sadite femme, l'auroit délaissée en ladite compagnie où elle auroit vescu et gagné sa vie du mieux qu'il luy auroit esté possible, continuant la profession de comédienne en laquelle il l'auroit nourrie. Seroit advenu que malicieusement et sans aucun subject ledit Jacob auroit fait saisir les meubles et équipages appartenant aux suppliants comme prétendant y avoir part, de l'ordonnance des Capitoulz de la ville de Thoulouse, pardevant lesquelz ledit Fleury auroit poursuivy les suppliants pour leur faire deffences de retenir en leur compagnie ladite Vénier, sa femme, où le procès ayant tiré en longueur et à faulte de bailler par ledit Fleury pencion de 25 liv. tournois par moys à ladite Vénier pour vivre, ainsy qu'il avoit esté ordonné par arrêt de nostre Parlement de Thoulouse du 28 novembre 1611, fut enjoint aux suppliants de continuer et retenir en leur compagnie icelle Vénier à peyne de 500 livres tournois d'amende; ce qu'ayant fait et s'estant acheminés pour nous venir trouver, suivant nostre commandement, icelluy Fleury voyant les suppliants absents, se seroit pourveu en nostre dit Parlement de Thoulouse et fait entendre, contre toute vérité, que lesdits suppliants avoient prins et emmené ladite Vénier, sa femme, où, par deffault et contumace, il auroit obtenu arrest contre les suppliants le 12 aoust 1612 par lequel ils auroient été bannis à perpétuité de nostre royaume avec confiscation de leurs biens et deffences de retenir et retirer en leur compagnie ladite Vénier. Néanmoins depuis ledit Fleury recognoissant ladite accusacion n'estre véritable, auroit passé transaction avec les suppliants le 23 octobre dernier par laquelle il s'est désisté de l'effect dudit arrest ; mais, à cause dudit banissement, lesdits suppliants n'osent le braver pour exercer leurs vaccacions en nostre royaume s'ilz n'estoient par nous rappelés, ce qu'ils nous ont très-humblement supplié et requis faire.

Pour ce est il que nous, ces choses considérées, et attendu que les suppliants sont ordinairement près notre personne, voulant préférer miséricorde à rigueur de justice, avons lesdits suppliants, de nostre grâce speciale, pleine puissance et auctorité royalle rappelé et rappelons dudit banissement et iceulx remis et restitué, remettons et restituons en leur bonne fame et renommée, au pays, en leurs biens non confisqueés et sur ce imposons silence perpétuel à nostre procureur général, ses substituts présents et advenir et tous autres, etc.

Donné à Paris le 14^e jour de septembre, l'an de grace 1613 et de notre regne le quatriesme. Signées LOUYS, et sur le reply : Pour le roy, la royne régente, sa mère, etc.

Enregistrées es registres du Grand Conseil, suivant l'arrest donné en icelluy, à Paris, le 18^e jour de janvier 1614.

(Arch. nationales, V⁵ 1228.)

– Emile Campardon, *Les Comédiens du roi de la troupe française pendant les deux derniers siècles*, Paris, Champion, 1879, p. 279-280.

資料 8 Acte d'association de la troupe de Mathieu Lefebvre

Furent presens en leurs personnes Mathieu Le Febvre, François Vautrel, tant pour luy que pour Aubry et Claude Les Vautrel, ses freres par lesquelz il promet faire ratifier et approuver quand requis en sera par ceulx cy apres nommez, Jacques Maugin, Mathieu Rube,

Robert Guerin, et Marie Veniere, femme dudict Lefebvre et de luy auctorisée pour faire et passer ce qui ensuict, tous comediens francois et ordinaires du roy estant de present à Paris, lesquelz volontairement ont recogneu, confessé et confessent eulx estre associez et s'associent par ces presentes à tous les jeux, commedies et autres actes, qu'ilz pourront jouer tant en ceste ville de Paris que par tout ailleur et mesme hors le royaume de France et ce pour et pendant le temps et espace de deux ans continuels et consecutifs sans que aucun d'eux se puisse departir de lad. compaignye et association pour quelque cause et occasion que ce soit sinon toutesfois du consentement de tous lesd. associez, à commencer icelle association du jour d'huy en avant pendant lesd. deux ans et pour cest effect seront tenuz ensemblement contribuez à tout fraiz qui seront pour ce necessaires, les deniers provenant desquelz jeux, commedies et autres actes qui se jourront pendant lesd. deux ans se partiront en cette maniere scavoit audict Le Febvre et sa femme deux partz deux tiers d'une autre part, audict Francoys Vautrel tant pour luy que pour lesd. Aubry et Claude Les Vautrel ses frères, deux partz et demy, aud. Maugin une part, led. Rubé une part ledict Guerin une part, que font en tout huict partz et ung sixiesme d'une part apres les fraiz prealablement pris tant des voictures, fraiz de theastre, lieux pour représenter lesd. jeux, peintures sy aucunes en convient faire, nourriture de serviteurs, entretenement et gages d'iceulx, des deniers provenans desquelz jeux ilz seront tenir bon et fidel compte l'ung à l'autre et advenant que l'ung d'eulx demeurast mallade, neantmoins il aura et luy appartiendra sa part tout ainsy que s'il jouoit et representoit avec les dessus dictz ; pour jouer et représenter lesquelz jeux seront tenuz tous les dessus nommez de se trouver sur le theatre par chacun jour qu'ilz jouront à l'heure de deux heures de relevée et apporter et fournir par chacun d'eulx l'habit qui luy conviendra par chacun jour pour jouer et représenter lesdictz jeux et comedies et ou aucun d'eux ne se trouveroit à lad. heure pourveu qu'il ne soit malade comme dict est en ce cas la part du defaillant sera et appartiendra en commung et sera partye esgallement entre eux, comme aussy seront tenuz tous les dessusdictz excepter led. Francoys Vautrel de assister led. Robert Guerin à jouer et représenter toutes farces qu'il advisera bon à peyne aux contrevenans de perdre leur part du jour dud. deffault et refus qui tournera au proffict entier des aultres, lequel Francoys Vautrel sera tenu avec lesd. Aubry et Claude Vautrel ses freres remplir les actes de leurs musique, violles instrumens, Car ainsy etc... promectant etc, obligeant chacun en droict soy et l'ung envers l'autre corps et biens, renonçant d'une part et d'autre. Faict et passé ez estudes des notaires soubzignez avant midy mil six cens huict le vingt uniesme jour de febvrier et ont tous signé les presents,

Le febvre

Robert Guerin

Maugin

Francois le Vautrel

Rubé

Cadier

Marie Veniere

Cuvillyer

– S. Wilma Deierkauf-Holsboer, *Vie d'Alexandre Hardy, poète du roi, 1572-1632 : 47 documents inédits*, Paris, Nizet, 1972, p. 191-193.

資料 9 Lettres patentes de Louis XIII portant réhabilitation pour Mathieu Lefebvre

Louis, par la grace de Dieu, roy de France et de Navarre, à tous présens et advenir, salut. Nostre cher et bien amé maistre Mathieu Lefebvre, natif de nostre province de Bretagne, nous a fait dire et remonstrer que deffunctz André Lefebvre et Jeanne Berthereau, ses père et mère, l'auroient dès son bas aage destiné à l'estude des bonnes lectres où de fait ils l'auroient fait instruire jusques en l'aage de seize ans, auquel temps qu'il fut en l'année 1590 les guerres civiles estant survenues en cest estât, ledict Lefebvre, porté de la dévotion d'un bon subject, auroit pris les armes au service du feu roy Henry le Grand, nostre très honoré seigneur et père, d'heureuse mémoire, et continué l'exercice d'icelles jusques à la fin des troubles, que se trouvant en ung aage trop avancé pour continuer ses estudes, il auroit esté incité et attiré par la compaignie d'aucuns à composer quelques tragédies, comédies, pastorales et autres poèmes tant graves que facétieux, qu'il auroit mesmes représenté en publicq pendant quelques années, estimant que ce feust chose aultant louable qu'elle est à plaindre d'un chascun, jusques à tant qu'ayant recongneu que ceste profession n'estoit approuvée des plus graves et sérieux, il auroit grandement désiré de s'en retirer, comme il a

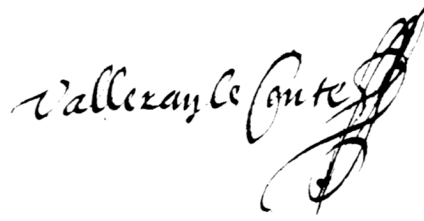
faict depuis dix ans en ça et arresté sa demeure en nostre ville de Sens où il a vescu en bon habitant avec sa femme et famille. Durant lequel temps, s'estant cependant employé en bonnes affaires, désirant continuer de bien en mieux avec candeur et modestie et aussi parachever le reste de ses jours, mais il crainct qu'on luy objecte et impute à reproche ladicte profession de comédie, ainsy que dict est, s'il n'est par nous restitué et réhabilité, requérant humblement sur ce nos lectres à ce nécessaires. A ces causes, voulant favorablement traicter ledict Lefebvre et ne permettre que une erreur de jeunesse luy puisse estre imputée et reprochée, attendu sa recognoissance et sa capacité, avons, de noz grace spéciale, plaine puissance et auctorité roiale, par ces présentes signées de nostre main, icelluy Lefebvre réhabilité, remis et restitué, réhabilitons, remectons et restituons en ses bonnes fame et renommée, voulons et nous plaist qu'il puisse doresnavant jouir de tous honneurs, privilèges, prérogatives et prééminences, exercer toutes charges, dignités et offices dont il pourra estre cy après pourveu ainsy que nos autres subjects et comme il eust peu faire auparavant sadicte profession de comédie, sans que ores ny à l'advenir on luy puisse objecter ou imputer aucune chose, ce que nous deffendons très-expressément, etc.

Donné à Paris au mois de décembre l'an de grace mil six cens dix-neuf et de nostre regne le dixiesme.

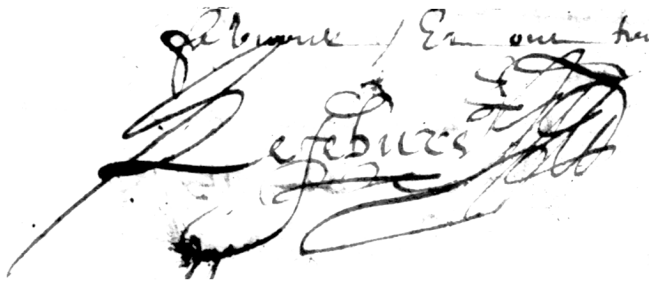
(Arch. nationales, X^{1a} 8649.)

– Campardon, *op. cit.*, p. 281-282.

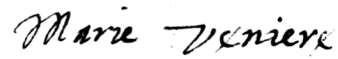
主な俳優・女優たちの署名



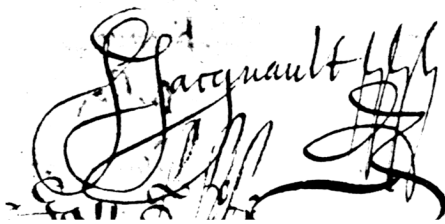
ヴァルラン・ル・コント Valleran Le Conte



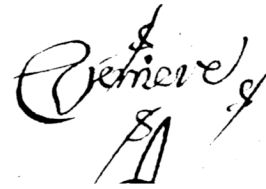
マテュー・ルフェーヴル Mathieu Lefebvre



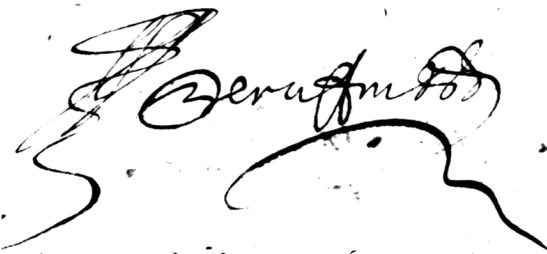
マリー・ヴニエール Marie Venière



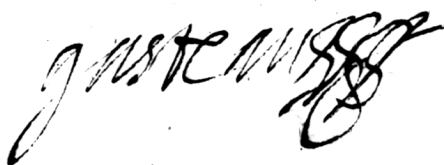
フルリー・ジャコー Fleury Jacquault



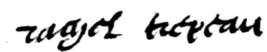
コロムブ・ヴニエール Colombe Venière



エティエンヌ・ド・リュファン Étienne de Ruffin



ニコラ・ガトー Nicolas Gasteau



ラシェル・トレポー Rachel Trépeau